



だより



R7.12.16 Vol.32

劇練習

来る150周年記念学習発表会に向けて、少し早いのですが、上学年は劇練習を始めました。子供たちの思い出になる発表会にしたいなあと、私もその練習に参加しています。

子供たちの練習に取り組む姿がいい！恥ずかしさよりも楽しさ、その雰囲気が見ていてとても気持ちがいいです。そして「ちょっと代役してくれん？」と言うと「やります！やります！」と我先に手を挙げるその姿もいい！中には他人のセリフまで覚えていた子供もいてびっくり！働き方改革の中、劇指導の負担から学習発表会はどんどん縮小される傾向にあります。が、表現活動を通して育つ感性は何物にも代えがたいものがあると私は信じています。

校外学習

去る12月8日、全校で校外学習へ。5、6年生は、お世話になった方々へみかんを届けに行きました。その途中、新川の橋をわたっていた子供たち。橋の下に鯉を見つけると「おー鯉や！」「いっぱいおる！」と少し興奮気味に橋の上から手をたたいていました。今や八幡浜に出ることなんて珍しくもなんともないと思うのですが、目をキラキラさせながら話をしている子供たちの姿がとっても可愛かったです！

楽しい一日となりました。



四方山話真穴 ver2. 其の三十二(挑戦するということ！)

11月28日に県下の校長先生方が集まる研究大会が開催されました。その大会の中で、学校の黒板を作り続けている会社の代表取締役社長、坂和氏の講演がありました。39歳の若手社長、学校ならば中堅教員に当たる年代でしょうか。企業理念は「黒板屋であり、挑戦屋」行動指針は「まずやる。じつちく。あたらしく。」でした。これは私が学校を経営していく上でも共感するところが多く、興味を持って講演を拝聴しました。

その中で心に残った話を紹介します。坂和さんは会社の後継ぎとして幼少の頃から育っていったようですが、決して順風満帆な人生を送ってきたわけではなく、たくさんの挫折を味わい壁にぶち当たりながらの人生だったようです。(ご本人曰く、黒板作りは斜陽産業だと…。)そんな経験の中からの言葉でした。『やらないことがいちばんの失敗』私の心のど真ん中に刺さりました。160キロ超えのストレートでした。(笑)そして続いてすぐに『挑戦にはハードワークが必要』(楽な挑戦なんかないですよ！そんな話でした。)これまたど真ん中です。

学校での働き方改革が叫ばれ始めてもう7、8年経つでしょうか。その間、非効率であるものや必要性に？がつくもの、負担が大きすぎるもの、様々な視点から業務を見直し、改革、改善を進めてきています。働きやすい環境を構築していくことは、これからも継続的に取り組まなければなりません。が、ややもすると本来、子供のために、教師が教師として成長していくために必要なものまで、改革の名のもとに削られているのではないかと。そんな危惧もあります。例えば、タブレットを活用して明日の時間割を配信する。効率を考えると理にかなってはいますが、子供たちは計画帳を書くという作業を通して、言葉を覚えたり、手指の巧緻性を獲得していったりします。小学校段階(特に低学年)では必要な作業だと私は考えています。(どちらがいいかはそれぞれです。)利便性や効率の高さを重視するあまり、人が生きていくために大切な活動やそれに挑戦する心が失われているのか？常に心に留めながら、教育活動を進めていきたいと思った講演会でした。

----- 切り取り線 -----